

## アンケート記入にあたって

### 1. 調査対象児 (JASPER : ADL 評価に準拠)

- (1) 3歳～18歳
- (2) 手術後3ヶ月までは除く
- (3) 小児整形外科疾患は除く

### 2. 回答項目

#### ●基本情報

平成20年11月1日現在で、該当する数値またはアルファベットを青枠に記入してください。診断名、補装具、大島の分類(一部改変)は下記より選択し、番号を記入してください。

診断名	補装具	大島の分類(一部改変)
1 脳原性運動障害	1 義肢	26 27 28 29 30
2 脊髄性運動障害	2 装具	21 22 23 24 25
3 筋・神経疾患	3 座位保持装置	20 13 14 15 16
4 骨系統疾患 (2001国際分類による)	4 車いす	19 12 7 8 9
5 先天性奇形症候群、表奇形 (骨系統疾患以外)	5 電動車いす	18 11 6 3 4
6 小児整形外科疾患 (小児期に特有の整形外科疾患)	6 座位保持いす	17 10 5 2 1
7 その他の 整形外科疾患	7 起立保持具	
8 精神遅滞、知的障害	8 歩行器	
9 てんかん	9 歩行補助つえ	
10 自閉症	10 重度障害者用 意思伝達装置	
11 ADHD, LD	11 その他	
12 言語発達遅滞		
13 視覚・聴覚障害		
14 その他の小児科疾患		
15 その他		

#### ●JASPER : ADL 評価

平成20年3月に、全国肢体不自由児施設運営協議会に提出のものを記入してください。

#### ●ICF 項目(心身機能・身体構造, 活動, 参加)

平成20年11月1日現在で、該当する番号を青枠に記入してください。

図1-A 郵送用紙1: アンケート記入にあたっての注意事項

●基本情報

性別	<input type="checkbox"/> 0: 男 <input type="checkbox"/> 1: 女	生年月日(西暦)	<input type="text"/> 年 <input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
身体障害者手帳	<input type="checkbox"/> 0: 無 <input type="checkbox"/> 1: 有 <input type="text"/> 等級	療育手帳	<input type="checkbox"/> 0: 無 <input type="checkbox"/> 1: 有 <input type="text"/> ランク(A, Bなど)
診断名 (複数回答可)	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>	補装具 (複数回答可)	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
大島の分類(一部改変)	<input type="text"/> <input type="text"/>		

●JASPER: ADL 評価

		自立度	介護度
食事	食事摂取		
	水分摂取		
	咀嚼		
排泄	大便		
	小便(男・女)		
	後始末		
更衣	Tシャツを着る		
	Tシャツを脱ぐ		
	前開き上着を着る		
	前開き上着を脱ぐ		
	長ズボンをはく		
	長ズボンを脱ぐ		
	パンツをはく		
パンツを脱ぐ			
整容	手洗い		
	歯磨き		
	洗顔		
入浴	浴槽の出入り		
	身体を洗う・拭く		
	頭を洗う・拭く		
基本的移動能力	室内(床面)の移動		
	臥位から坐位		
	床面から椅子への移乗		
	椅子から床面への移乗		
	椅子からの立ち上がり		
	床面での坐位姿勢		
	椅子での坐位姿勢		
屋内移動			

●ICF: 心身機能・身体構造

0 無	1 軽度	↓
1 有	2 中程度	
	3 重度	↓
	4 完全	
	9 不明	

心身機能・身体構造	有無	程度
変形あるいは拘縮	上肢	
	下肢	
	体幹	
筋緊張異常(低下)	片側	
	上肢	
	下肢	
筋緊張異常(亢進)	片側	
	上肢	
	下肢	
不随意運動	片側	
	上肢	
	下肢	
全身		

有無: 0 の場合, 程度は空欄

図1-B 郵送用紙2(表面): アンケート記入表(1)

### ●ICF：活動

注) 利用無 福祉用具も人的支援も利用しない状態で、できる活動の困難さ  
 現環境 現在の環境で、行っている活動の困難さ(福祉用具と人的支援の利用の有無を問わない)

- 0 困難無し  
 1 わずかな困難  
 2 かなりの困難  
 3 極度の困難  
 4 全くの困難  
 (活動できない)
- どちらも回答

活動	判定のための具体例	利用無	現環境
意思決定	自分で物事を決めて実行する。		
日課の遂行	予定どおり活動する。		
会話	話し言葉、書き言葉、記号などを用いて意見の交換を行う。		
コミュニケーション用具 および技法の利用	電話やコンピュータを利用する。		
乗り移り(移乗)	車いすから便座へ移動する。		
歩行	常に片方の足が地面についた状態で、一步一步、足を動かす(1Km未満の歩行)。		
移動	歩行以外の方法によって身体全体を移動させる。		
健康に注意すること	バランスの取れた食事をする、適切な温度を保つ。		
基本的な対人関係	適切な思いやりや敬意を示す。		
基本的な経済的取引	実際にお金を払って物品を購入する。		

### ●ICF：参加

注) 現環境 現在の環境で、行っている参加の困難さ(福祉用具と人的支援の利用の有無を問わない)

- 0 困難無し  
 1 わずかな困難  
 2 かなりの困難  
 3 極度の困難  
 4 全くの困難  
 (参加できない)  
 9 非該当  
 (個人の意思 年齢等により不参加)

参加	判定のための具体例	現環境
レクリエーションとレジャー	スポーツやゲーム大会、芸術または文化的行事、工芸・趣味の集まりなどに関与する。	
物品とサービスの入手	通信販売や近所のスーパーで日常生活に必要な家庭用品などを調達する。	
見習研修(職業準備)	雇用の前段階としての見習い研修を受ける。	
無報酬の仕事	地域清掃のようなボランティア活動をする。施設内での手伝いも含む。	

図1-C 郵送用紙2(裏面):アンケート記入表(2)

表1 JASPER・ADL Ver. 3.2 評価項目と尺度

◎食事			
評価項目	自立度	介助度	
食事摂取	5: 普通の食器（箸）を使って問題なく食べている 4: 特定の食器を使って食べている 3: 特定の食器を使って食べているが、監視、助言が必要 2: 一部は自分で食べているが介助が必要 1: 自分では食べていない	1: 介助なし・自立 2: 監視や助言、チェックが必要 3: 少しの介助が必要 4: 多くの介助が必要 5: すべて介助	
水分摂取	5: 普通の食器（箸）を使って問題なく食べている 4: 特定の食器を使って食べている 3: 特定の食器を使って食べているが、監視、助言が必要 2: 一部は自分で食べているが介助が必要 1: 自分では食べていない	1: 介助なし・自立 2: 監視や助言、チェックが必要 3: 少しの介助が必要 4: 多くの介助が必要 5: すべて介助	
咀嚼	5: 普通の食器（箸）を使って問題なく食べている 4: 特定の食器を使って食べている 3: 特定の食器を使って食べているが、監視、助言が必要 2: 一部は自分で食べているが介助が必要 1: 自分では食べていない	1: 必要なし 2: 大きさ、固さの調整が必要 3: きざみ食 4: ペースト状 5: 流動食	
◎排泄			
大便	5: 和式のトイレでも問題なく使用している 4: 洋式のトイレを問題なく使用している 3: 障害者用トイレをひとりで使用している 2: 障害者用トイレなどの整備されたトイレであっても一部介助が必要 1: 全介助	1: 介助なし・自立 2: 監視や助言、チェックが必要 3: 少しの介助が必要 4: 多くの介助が必要 5: すべて介助	
小便	男子	5: 普通の男子用トイレで問題なくしている 4: ひとりでしているが支えが必要 3: 手すりなどをもってしているが監視が必要 2: 介助者が一部支えるか、動作を介助している 1: 全介助	1: 介助なし・自立 2: 監視や助言、チェックが必要 3: 少しの介助が必要 4: 多くの介助が必要 5: すべて介助
	女子	5: 和式のトイレでも問題なく使用している 4: 洋式のトイレを問題なく使用している 3: 障害者用トイレをひとりで使用している 2: 障害者用トイレなどの整備されたトイレであっても一部介助が必要 1: 全介助	1: 介助なし・自立 2: 監視や助言、チェックが必要 3: 少しの介助が必要 4: 多くの介助が必要 5: すべて介助
後始末 (大便)	4: 問題なく後始末している 3: 一応後始末は自分でしているが後でチェックが必要 2: お尻を拭くことや水を流すことに一部介助が必要 1: 全介助	1: 介助なし・自立 2: 監視や助言、チェックが必要 3: 少しの介助が必要 4: 多くの介助が必要 5: すべて介助	

◎更衣		
評価項目	自立度	介助度
Tシャツを着る	5: ひとりで問題なく着ている 4: ひとりで着ているがチェックが必要 3: ひとりで着ているが助言や監視が必要 2: 一部介助 1: 全介助	1: 介助なし・自立 2: 監視や助言, チェックが必要 3: 少しの介助が必要 4: 多くの介助が必要 5: すべて介助
Tシャツを脱ぐ	4: ひとりで問題なく脱いでいる 3: ひとりで脱いでいるが助言や監視が必要 2: 一部介助 1: 全介助	1: 介助なし・自立 2: 監視や助言, チェックが必要 3: 少しの介助が必要 4: 多くの介助が必要 5: すべて介助
前開きの着る	5: ひとりで問題なく着ている 4: ひとりで着ているがチェックが必要 3: ひとりで着ているが助言や監視が必要 2: 一部介助 1: 全介助	1: 介助なし・自立 2: 監視や助言, チェックが必要 3: 少しの介助が必要 4: 多くの介助が必要 5: すべて介助
前開きの脱ぐ	4: ひとりで問題なく脱いでいる 3: ひとりで脱いでいるが助言や監視が必要 2: 一部介助 1: 全介助	1: 介助なし・自立 2: 監視や助言, チェックが必要 3: 少しの介助が必要 4: 多くの介助が必要 5: すべて介助
長ズボンをはく	5: ひとりで問題なくはいている 4: ひとりではいているがチェックが必要 3: ひとりではいているが助言や監視が必要 2: 一部介助 1: 全介助	1: 介助なし・自立 2: 監視や助言, チェックが必要 3: 少しの介助が必要 4: 多くの介助が必要 5: すべて介助
長ズボンを脱ぐ	4: ひとりで問題なく脱いでいる 3: ひとりで脱いでいるが助言や監視が必要 2: 一部介助 1: 全介助	1: 介助なし・自立 2: 監視や助言, チェックが必要 3: 少しの介助が必要 4: 多くの介助が必要 5: すべて介助
パンツをはく	5: ひとりで問題なくはいている 4: ひとりではいているがチェックが必要 3: ひとりではいているが助言や監視が必要 2: 一部介助 1: 全介助	1: 介助なし・自立 2: 監視や助言, チェックが必要 3: 少しの介助が必要 4: 多くの介助が必要 5: すべて介助

パンツを脱ぐ	4: ひとりで問題なく脱いでいる 3: ひとりで脱いでいるが助言や監視が必要 2: 一部介助 1: 全介助	1: 介助なし・自立 2: 監視や助言, チェックが必要 3: 少しの介助が必要 4: 多くの介助が必要 5: すべて介助
--------	--	---

次頁へ続く

◎整容		
評価項目	自立度	介助度
手洗い	3: ひとりで手を洗い, 拭いている 2: 一部介助 1: 全介助	1: 介助なし・自立 2: 監視や助言が必要 3: 少しの介助が必要 4: 多くの介助が必要 5: すべて介助
歯磨き	4: ひとりで問題なく磨いている 3: ひとりで磨いているがチェックが必要 2: 一部介助 1: 全介助	1: 介助なし・自立 2: 助言, チェックが必要 3: 少しの介助が必要 4: 多くの介助が必要 5: すべて介助
洗顔	3: ひとりで顔を洗い, 拭いている 2: 一部介助 1: 全介助	1: 介助なし・自立 2: 監視や助言が必要 3: 少しの介助が必要 4: 多くの介助が必要 5: すべて介助
◎入浴		
浴槽の出入り	3: どんな浴槽でも出入りしている 2: 監視又は一部介助 1: 全介助	1: 介助なし・自立 2: 少しの介助が必要 3: 多くの介助が必要 4: すべて介助
身体を洗う, 拭く	4: ひとりで問題なくしている 3: ひとりでしているが助言やチェックが必要 2: 一部介助 1: 全介助	1: 介助なし・自立 2: 助言, チェックが必要 3: 少しの介助が必要 4: 多くの介助が必要 5: すべて介助
頭を洗う, 拭く	4: ひとりで問題なくしている 3: ひとりでしているが助言やチェックが必要 2: 一部介助 1: 全介助	1: 介助なし・自立 2: 助言, チェックが必要 3: 少しの介助が必要 4: 多くの介助が必要 5: すべて介助

次頁へ続く

◎基本的移動能力		
評価項目	自立度	介助度
室内（床面）の移動	5：制限なく自由に移動している 4：若干の制限はあるが目的のところに移動している 3：特定の条件で目的のところまで移動している 2：身体を動かすことができても、目的のところまで移動できない 1：自力ではまったく移動できない	1：介助なし・自立 2：環境整備が必要 3：監視や助言が必要 4：一部介助が必要 5：すべて介助
臥位から座位	4：寝た状態から問題なくひとりで起き上がり坐る 3：ひとりで坐れるが時間がかかるか不確実である 2：一部介助 1：全介助	1：介助なし・自立 2：監視や助言が必要 3：少しの介助が必要 4：多くの介助が必要 5：すべて介助
床面から椅子への移乗	5：自由に移乗している 4：環境調整をしたうえで自由に移乗している 3：移乗動作自体を手伝うことはないが監視や助言が必要 2：一部介助 1：全介助	1：介助なし・自立 2：環境整備、監視や助言が必要 3：少しの介助が必要 4：多くの介助が必要 5：すべて介助
椅子から床面への移乗	5：自由に降りている 4：環境調整をしたうえで自由に降りている 3：降りる動作自体を手伝うことはないが監視や助言が必要 2：一部介助 1：全介助	1：介助なし・自立 2：環境整備、監視や助言が必要 3：少しの介助が必要 4：多くの介助が必要 5：すべて介助
椅子からの立ち上がり	5：支えなしで立ち上がる 4：環境調整をしたうえで立ちあがる 3：立ち上がる動作自体を手伝うことはないが監視や助言が必要 2：一部介助 1：全介助	1：介助なし・自立 2：環境整備、監視や助言が必要 3：少しの介助が必要 4：多くの介助が必要 5：すべて介助
床面での坐位姿勢	5：手を離して安定して坐位姿勢を保っている 4：坐位姿勢を保つが、安定していない 3：手で支えて坐位姿勢を保つ 2：坐位姿勢を保つのに、身体の一部介助がいる 1：坐位姿勢はとれない	1：介助なし・自立 2：監視が必要 3：体幹を支えて坐位を保つ 4：頭部と体幹を支えて坐位を保つ 5：介助しても坐位をとれない
椅子での坐位姿勢	5：どんな椅子でも安定して坐っている 4：背もたれや腰掛のあるものに坐っている 3：胸ベルトやテーブルなどの支えを使って坐っている	1：自立 2：一部介助が必要 3：介助しても坐位がとれない

	2: 座位保持を目的に工夫した椅子を使って坐っている 1: 椅子での座位姿勢はとれない	
屋内移動	5: 独歩で移動している 4: 杖や歩行器などの補助具を使って立って移動している 3: 手動あるいは伝道車椅子を使って、目的の場所に移動している 2: 手動あるいは電動車椅子を操作はするが目的の場所に移動できない 1: すべて介助用の移動手段（介助用車椅子、バギー車）を利用	1: 介助なしでしている 2: 監視や助言が必要 3: 少しの介助が必要 4: 多くの介助が必要 5: すべて介助

点、全介助が1点としている。介助度は全介助が5点、介助や見守りをまったく要さない状態が最小値の1点に設定している。

## A. 結果と考察

大島の分類が1～4のグループは全体(496名)の35%(173名)を占め、大島の分類が5以上のグループは全体の65%(323名)であった。肢体不自由児施設入所児の35%が定義どおりの重症児で占められているこの結果は従来の報告を確認するところであった。

### 1. 年齢

図2は年齢毎の入所者比率を示している。大島の分類が1～4のグループはほぼ正規形の分布を示し、9～10歳および13～14歳の入所児が同率で最も多く、それぞれ全体の17%を占めていた。また3～4歳が7%で最も入所比率が低く、次いで17～18歳が8%と低比率であった。大島5以上のグループの分布は高年齢側に偏り、13～14歳が最も高く21%、次いで15～16歳が19%、17～18歳が17%であった。17～18歳の入所児は大島1～4では8%であったが、大島5以上では17%を占め

ていた。

### 2. 食事

図3は食事に関連する項目(「食事摂取」、「水分摂取」、「咀嚼」)の自立度と介助度毎の入所者比率を表している。「食事摂取」の自立度は、大島の分類が1～4の入所児では、自立度が最も低いことを意味する「1:自分では食べていない」が80%以上を占めた。対照的に大島の分類が5以上の入所児は、自立度が最も高いことを意味する「5:普通の食器(箸)を使って問題なく食べている」の比率が最も高く全体の約50%となっていた。介助度は、大島の分類が1～4の入所児では、最も高い介助度を意味する「5:すべて介助」に該当する入所児が80%以上であった。一方、大島の分類が5以上の入所児の介助度は「1:介助なし・自立」の比率が最も高く全体の40%以上を占めていた。この傾向は水分摂取、咀嚼においても同様であった。すなわち、大島の分類が1～4の入所児は、自立度が最も低い区分および介助度が最も高い区分の入所児がそれぞれ49～73%および46～79%であり、対照的に大島の分類が5以上に該当



するグループは自立度が最も高い区分および介助度が最も低い区分に該当する入所児がそれぞれ57～56%および50～55%であった。

### 3. 排泄

図4は排泄に関連する項目（「大便」、「小便」、「後始末（大便）」）の自立度と介助度毎の入所者比率を表している。「大便」の自立度は、大島の分類が1～4の入所児では、「1：全介助」が95%を占めた。大島の分類が5以上の入所児でも、「1：全介助」が最も高い比率であったが、30%程度にとどまっていた。介助度は、大島の分類が1～4の入所児では、「5：すべて介助」に該当する入所児が約90%を占めたが、大島の分類が5以上の入所児では30%程度にとどまった。小便、後始末（大便）においても、大島の分類が1～4の入所児では、自立度が最も低い区分、介助度が最も高い区分の該当者が90%以上を占め、大島の分類が5以上の入所児では30%程度にとどまる傾向であった。

### 4. 更衣

図5-A、Bは更衣に関連する項目（Tシャツ・前開きの上衣・長ズボン・パンツの着脱）の自立度と介助度毎の入所者比率を表している。「Tシャツを着る」の自立度は、大島の分類が1～4の入所児では、「1：全介助」が90%以上を占めた。対照的に大島の分類が5以上の入所児は、「1：全介助」は30%程度にとどまり、「5：ひとりで問題なく着ている」の比率が30%以上になった。介助度は、大島の分類が1～4の入所児では、「5：すべて介助」が約90%を占めた。大島の分類が5以上の入所児の介助度は「5：す

べて介助」は30%程度にとどまり、「1：介助なし・自立」の比率が約40%になった。この傾向は「Tシャツを脱ぐ」、「前開きの上衣の着脱」、「長ズボンの着脱」、「パンツの着脱」でも同様であった。すなわち、大島の分類が1～4の入所児は、自立度が最も低い区分が91～97%、介助度が最も高い区分が86～95%を占め、一方、大島の分類が5以上の入所児では、自立度が最も低い区分が28～34%、介助度が最も高い区分が25～32%にとどまっていた。

### 5. 整容

図6は整容に関連する項目（「手洗い」、「歯磨き」、「洗顔」）の自立度と介助度毎の入所者比率を表している。「手洗い」の自立度は、大島の分類が1～4の入所児では、「1：全介助」が96%を占めた。大島の分類が5以上の入所児では、「3：ひとりで手を洗い、拭いている」が48%で最高比率となった。介助度は、大島の分類が1～4の入所児では、「5：すべて介助」に該当する入所児が93%を占めたが、大島の分類が5以上の入所児では24%にとどまり、「1：介助なし・自立」が最も高い39%であった。「歯磨き」、「洗顔」においても、大島の分類が1～4の入所児では、自立度が最も低い区分および介助度が最も高い区分の該当者が90%以上を占めたが、大島の分類が5以上の入所児では30%程度にとどまり、「1：介助なし・自立」が30%以上になる傾向であった。

### 6. 入浴

図7は入浴に関連する項目（「浴槽の出入り」、「体を洗う、拭く」、「頭を洗う、拭く」）

の自立度と介助度毎の入所者比率を表している。「浴槽の出入り」の自立度は、大島の分類が1～4の入所児では、「1：全介助」が99%を占めた。大島の分類が5以上の入所児では、「1：全介助」が47%にとどまった。介助度は、大島の分類が1～4の入所児では、「5：すべて介助」に該当する入所児が98%を占めたが、大島の分類が5以上の入所児では41%にとどまった。この傾向は「身体を洗う、拭く」、「頭を洗う、拭く」でも同様であり、大島の分類が1～4の入所児の自立度は「1：全介助」が98%、介助度は「5：全て介助」が94～95%であった。大島の分類が5以上の入所児では、自立度は「1：全介助」が42～46%、介助度は「5：全て介助」が39～41%にとどまった。

## 7. 基本的移動能力

図8-A、Bは基本的移動能力に関連する項目（「室内（床面）の移動」、「臥位から坐位」、「床面から椅子への移乗」、「椅子から床面への移乗」、「椅子からの立ち上がり」、「床面での坐位姿勢」、「椅子での坐位姿勢」、「屋内移動」）の自立度と介助度毎の入所者比率を表している。「室内（床面）の移動」の自立度は、大島の分類が1～4の入所児では、「1：自力ではまったく移動できない」が59%を占めた。大島の分類が5以上の入所児では、「5：制限なく自由に移動している」が43%で最高比率となった。介助度は、大島の分類が1～4の入所児では、「5：すべて介助」に該当する入所児が70%を占めたが、大島の分類が5以上の入所児では「1：介助なし・自立」が45%で最高比率であった。その他の基本的移動能力に関連する項目につい

てもほぼ同様の傾向があり、大島の分類が1～4の入所児の自立度は最も自立度が低い区分が大半を占め50～93%、介助度は最も介助度が高い区分が大半を占め33～90%であった。大島の分類が5以上の入所児の自立度は最も自立度が高い区分が大半を占め25～62%、介助度は最も介助度が低い区分が大半を占め30～63%であった。

## 8. まとめ

JASPERによるADL評価結果を大島の分類が1～4である入所児グループと5以上である入所児グループに分けて集計した。その結果、大島の分類が1～4の入所児のほとんどは自立度が最低水準であり、介助度が最高水準であることが分かった。対照的に大島の分類が5以上の入所児では自立度が高水準に移行し、介助度は低水準の区分が多くなった。同じ肢体不自由児施設入所児でありながら、入所児の内容は決して一様ではなく、特に大島の分類が1～4である定義どおりの重症児に該当する入所児とそれ以外の入所児では自立度・介助度が大きく異なり、肢体不自由児施設ではさまざまなニーズに対応している実態が明らかとなった。今回はJASPERによるADL評価に焦点を絞った報告となったが、ICFによる生活機能の調査結果との関連を含めた詳細な分析結果は別の機会で報告したい。

なお、JASPERの介助度は、必要な介助のタイプを聞いており、その介助がどのくらいの頻度・時間で必要であるかを聞いているわけではない。例えばJASPERによる介助度の程度が見守りや監視などの低い水準であっても1日に5時間の支援が必要な場合と、全介

助であるが1日30分の支援が必要な場合では、どちらの支援強度が高いのかは単純に判断できるものではない。したがって本報告は、大島の分類が5以上の入所児が定義どおりの重症児に比べて必要な支援強度が低いということを示しているわけではない。より具体的な支援強度を測るには、必要な支援タイプに

加え、どのくらいの支援頻度と支援時間が必要なかという視点が必要と考えられる。米国知的・発達障害協会において知的障害がある人に向けて開発されたSIS (Supports Intensity Scale)<sup>5)</sup>では、この頻度の概念を取り入れて支援強度を測る尺度となっており、わが国における肢体不自由児施設入所児

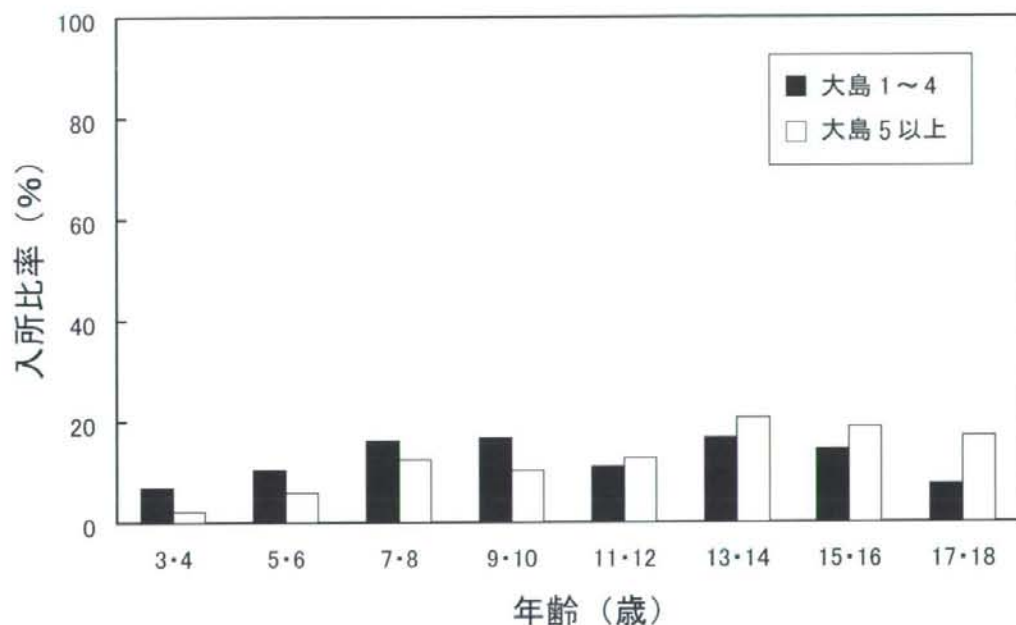


図2 年齢毎の入所比率分布

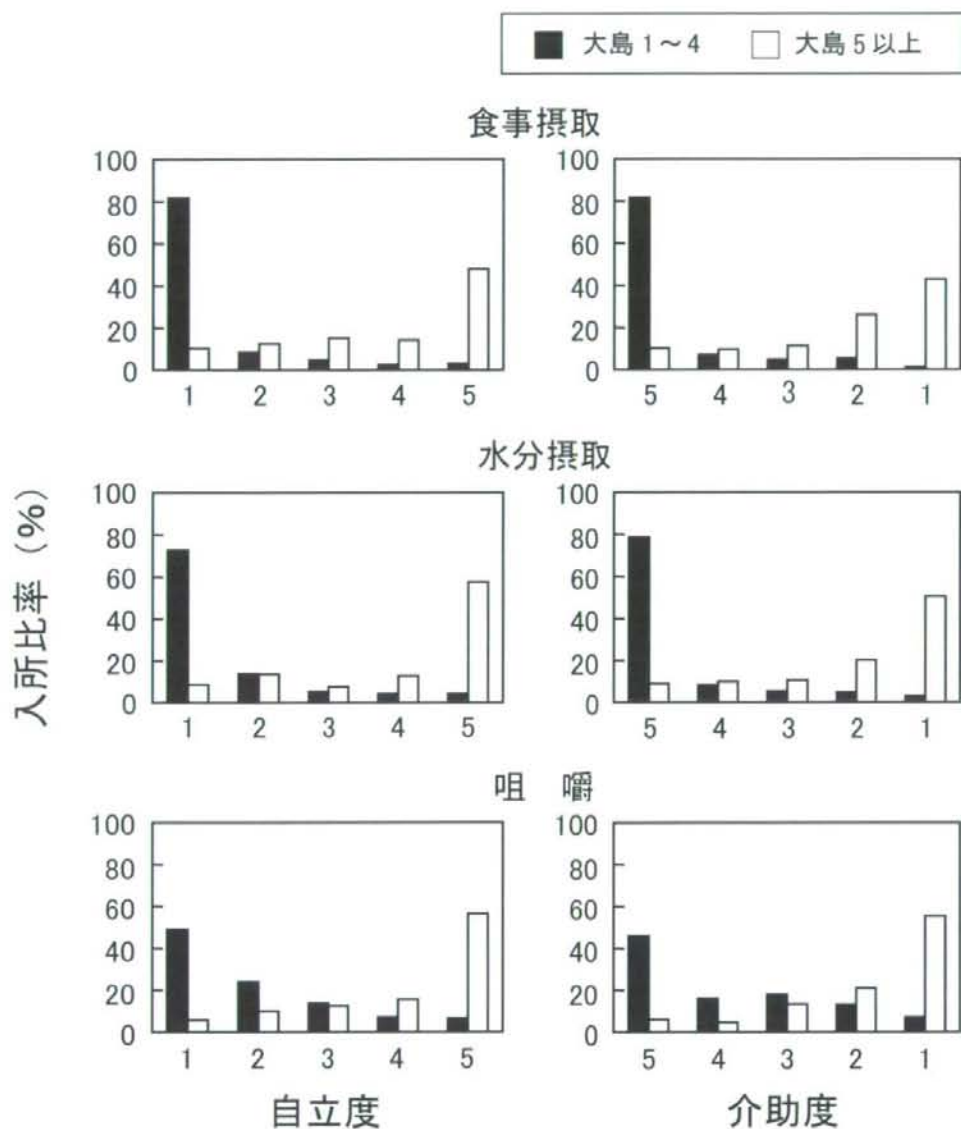


図3 食事関連動作の自立度と介助度

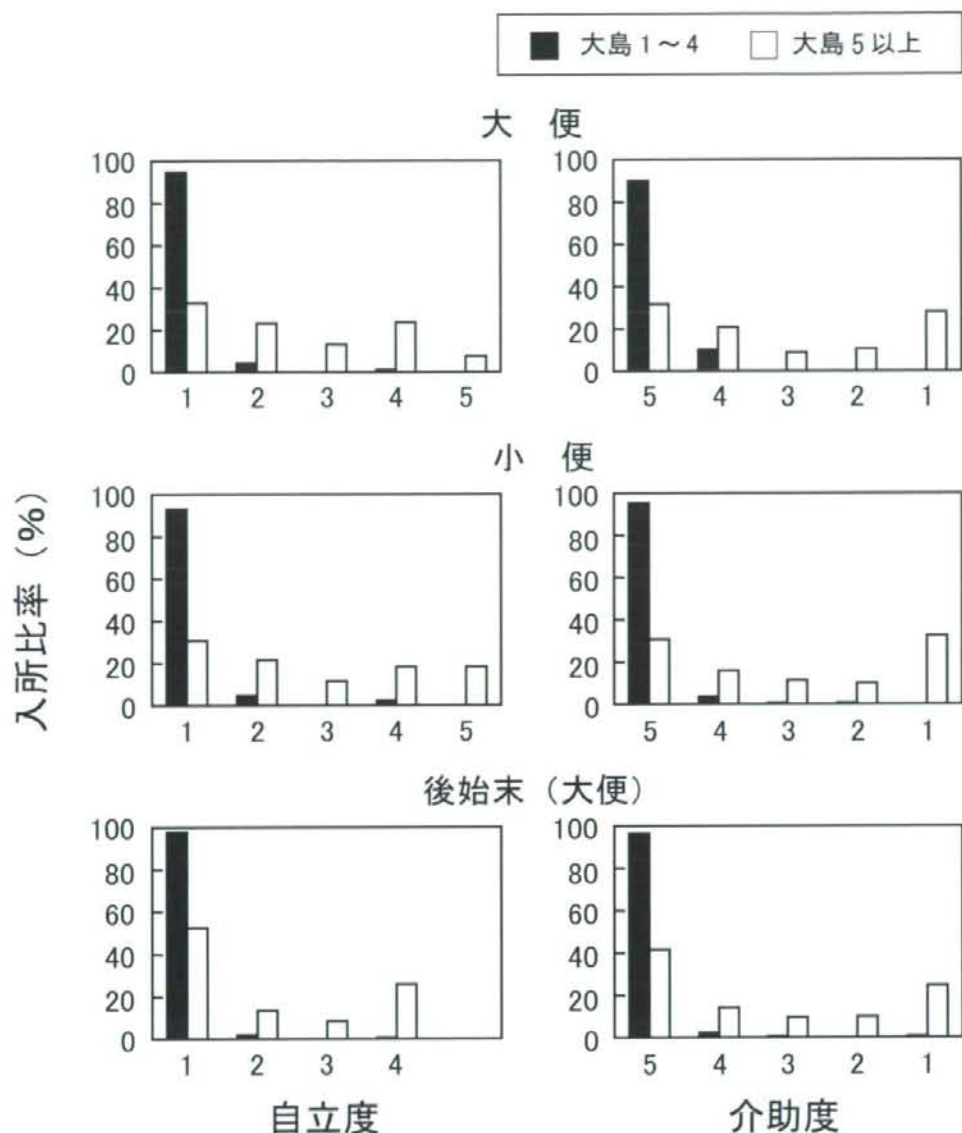


図4 排泄関連動作の自立度と介助度

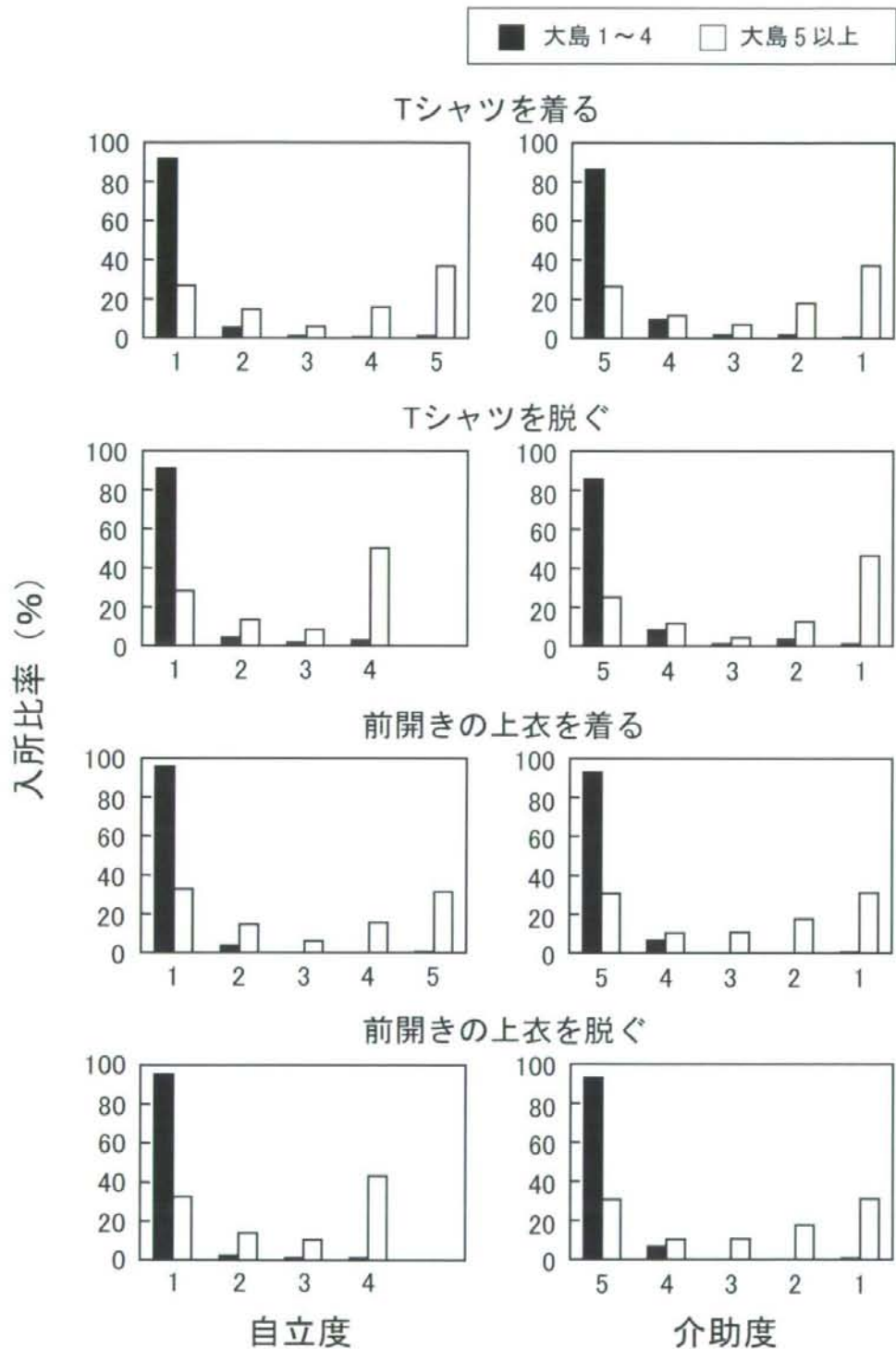


図5-A 更衣関連動作(1)の自立度と介助度

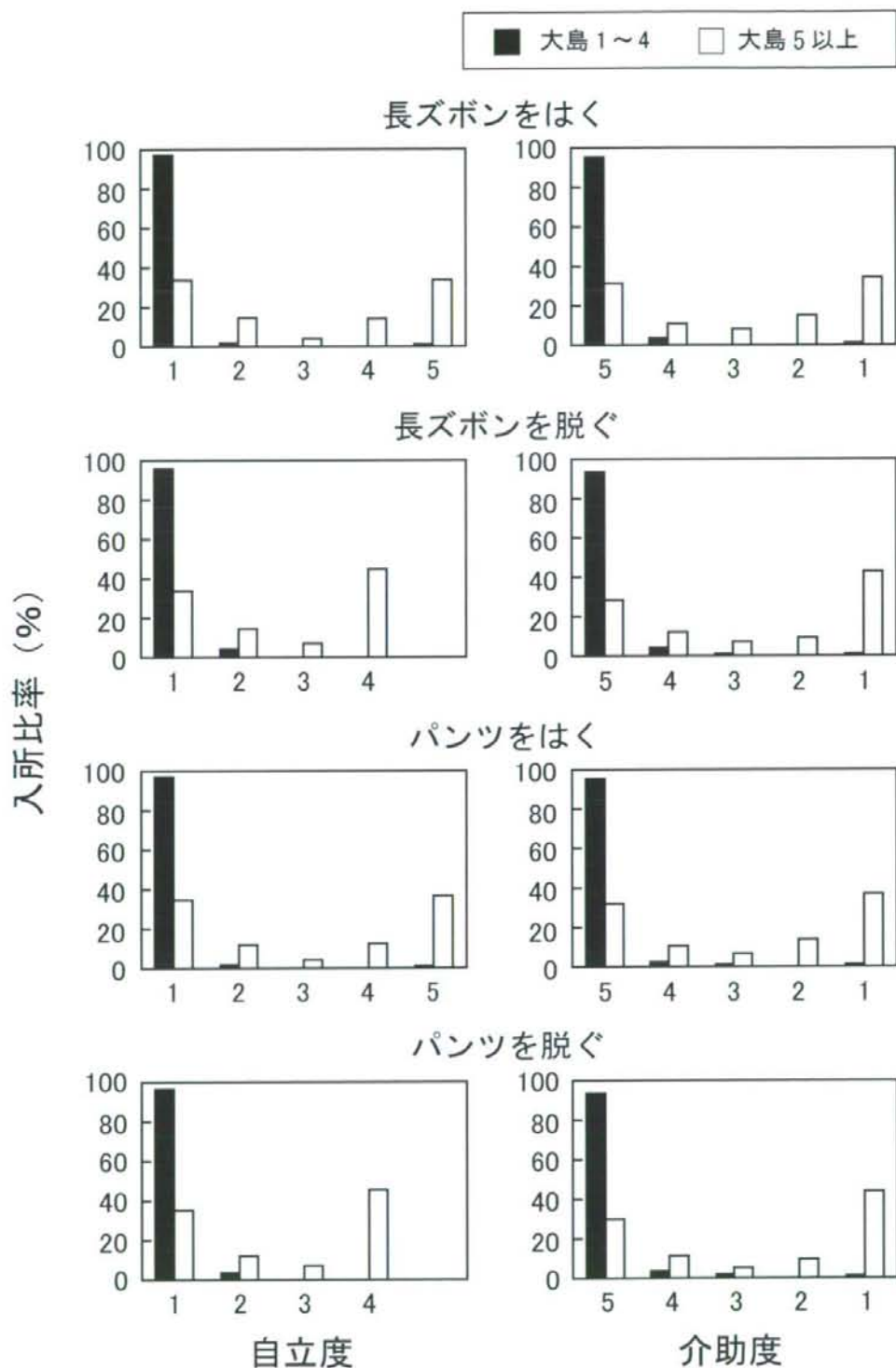


図5-B 更衣関連動作(2)の自立度と介助度

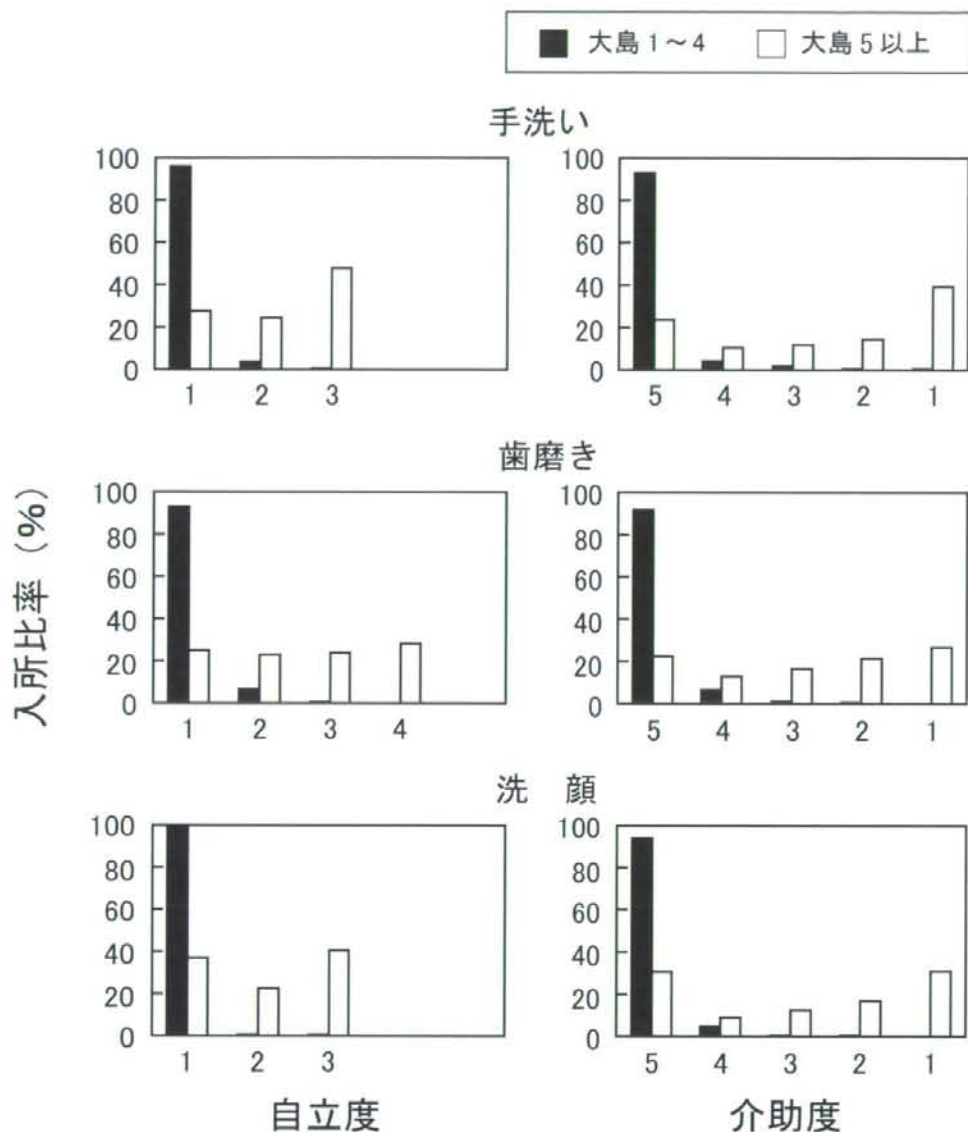


図6 整容関連動作の自立度と介助度



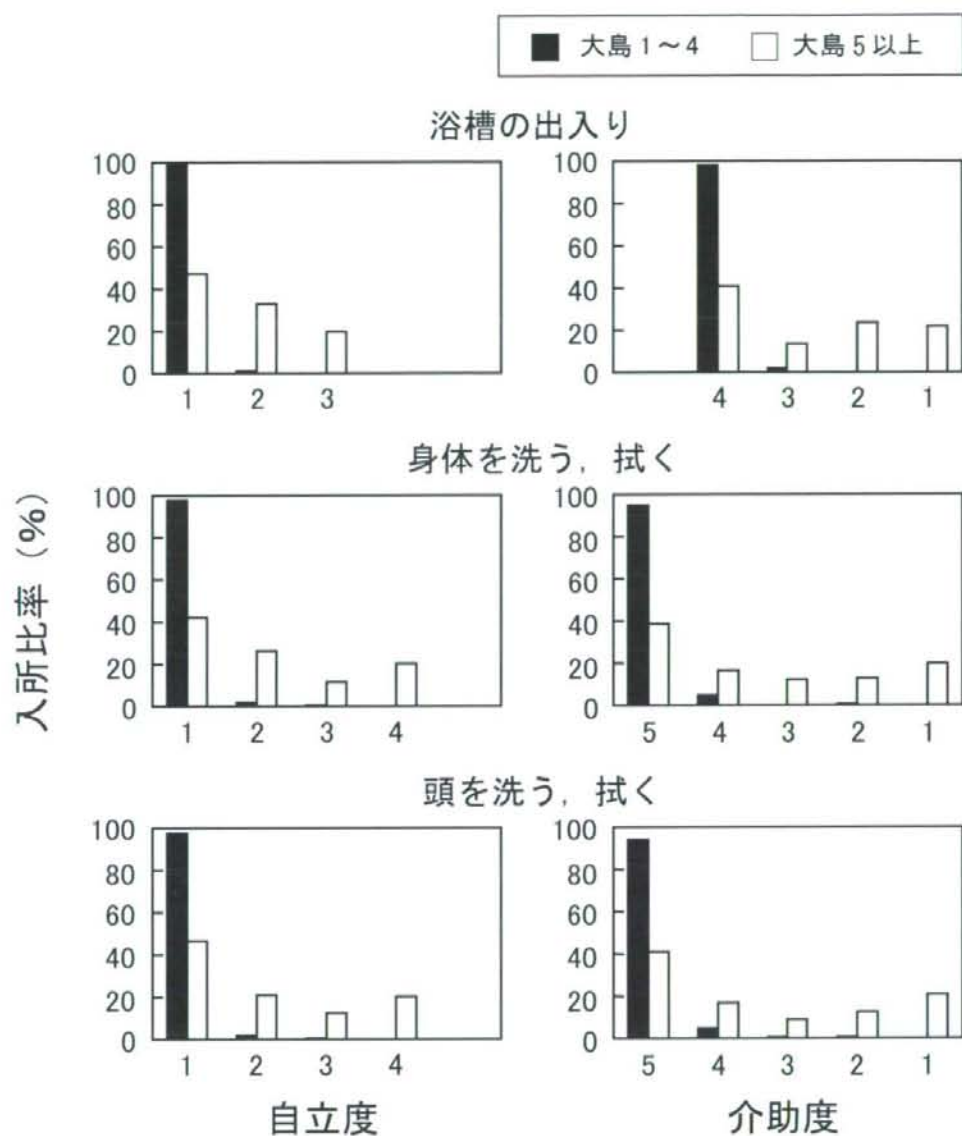
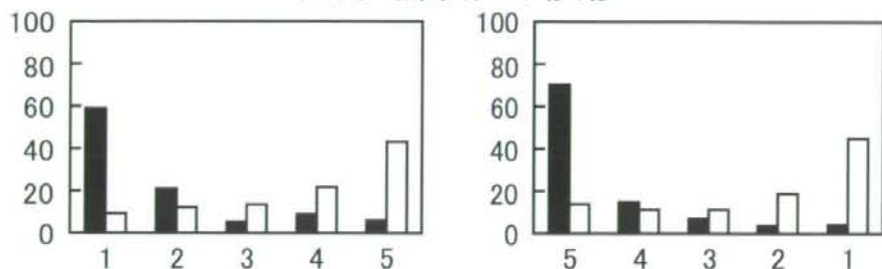


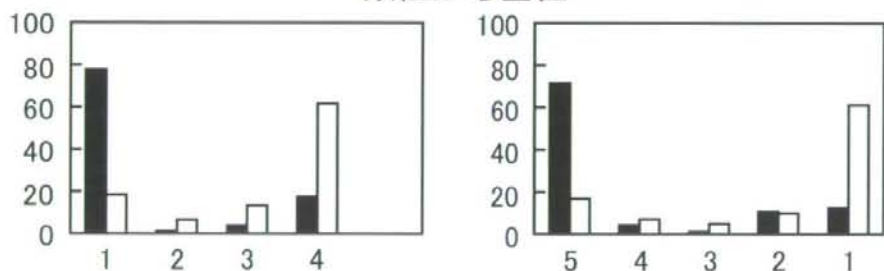
図7 入浴関連動作の自立度と介助度

■ 大島 1~4    □ 大島 5以上

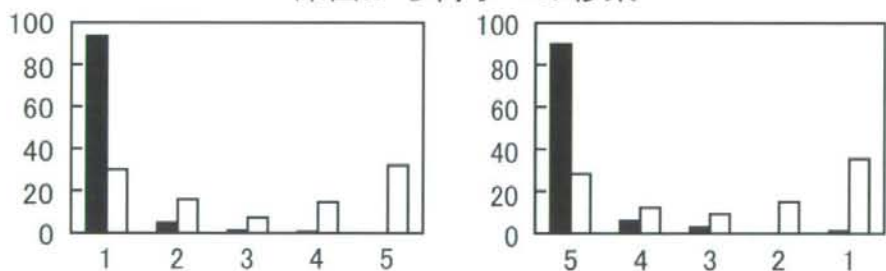
室内（床面）の移動



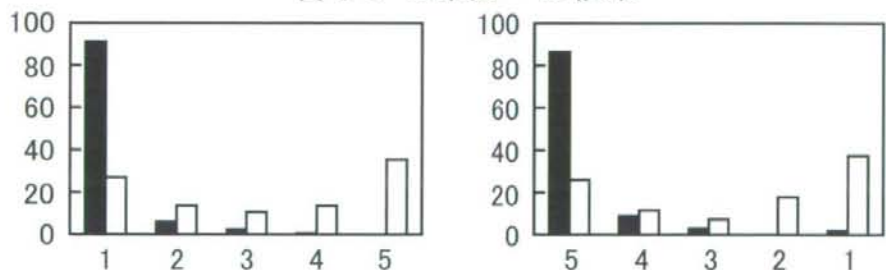
臥位から坐位



床面から椅子への移乗



椅子から床面への移乗



自立度

介助度

図 8 - A 基本的移動能力（1）の自立度と介助度

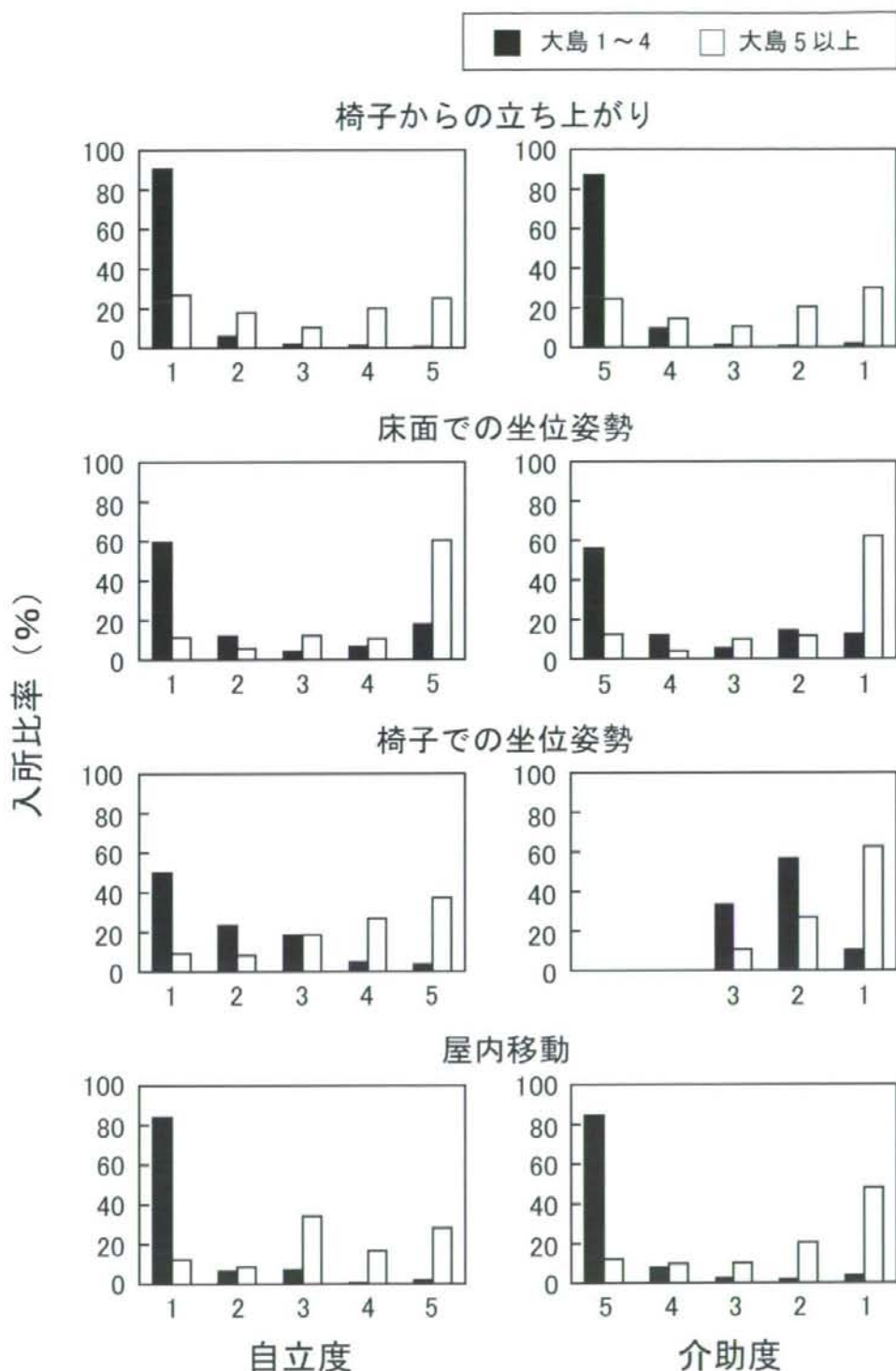


図 8-B 基本的移動能力(2)の自立度と介助度

に対しても有効となり得ると考えられる。

2008.

稿を終えるに当たり協力いただいた22施設に感謝する。

## 文献

1) 伊達伸也、高橋義仁、基本的ADL評価法 JASPER・ADL Ver3.2の使い方、全国肢体不自由児施設運営協議会編集、障害児の包括的評価法マニュアル JASPERの実践的活用法、東京：メジカルビュー社、2006：48-87.

2) 佐藤久夫監訳 三田岳彦、三上史哲、榎部公一翻訳、ビギナーズガイド：生活機能、障害、健康に関する共通言語にむけて：ICF国際生活機能分類（WHO：Towards a common language for functioning, disability, and health）、日本障害者リハビリテーション協会Webページ：[http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/intl/un/080128\\_mita\\_icfbg/index.html](http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/intl/un/080128_mita_icfbg/index.html)

3) 柳田正明：重度・重複の知的障害者の地域移行を困難にする二次的障害の日常生活支援のあり方に関する研究、厚生労働科学研究 知的障害者の地域移行を困難にする二次的障害とその対策に関する研究 昭和18年度報告、5-178, 2007.

4) 三田岳彦、三上史哲、榎部公一、今林宏典：国際生活機能分類（ICF）による大學生活の評価と心拍数による身体活動強度の推定—肢体不自由のある大學生を対象とした事例研究—、川崎医療福祉学会誌 18: 322-333, 2009.

5) 日本知的障害者福祉協会監修 知的障害のある人の支援尺度（SIS）—介護から支援への転換—、東京：中央法規出版、